**降誕節第１主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年12月31日**

**「天に栄光　地に平和」**

**イザヤ書11章1節～10節**

**11:1 エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち**

 **11:2 その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊／思慮と勇気の霊／主を知り、畏れ敬う霊。**

 **11:3 彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず／耳にするところによって弁護することはない。**

 **11:4 弱い人のために正当な裁きを行い／この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち／唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。**

 **11:5 正義をその腰の帯とし／真実をその身に帯びる。**

 **11:6 狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。**

 **11:7 牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。**

 **11:8 乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。**

 **11:9 わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。**

 **11:10 その日が来れば／エッサイの根は／すべての民の旗印として立てられ／国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く。**

**ルカによる福音書2章8節～21節**

**2:8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。**

 **2:9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。**

 **2:10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。**

 **2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。**

 **2:12 あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」**

 **2:13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。**

 **2:14 「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」**

 **2:15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。**

 **2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。**

 **2:17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。**

 **2:18 聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。**

 **2:19 しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。**

 **2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。**

 **2:21 八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。**

　**先週はクリスマス礼拝と祝会を大きな祝福の中で行うことができました。新来会者は与えられませんでしたが、久しぶりに来られた方がおられたり、教会でのクリスマスを初めて過ごされる方がおられたりしました。4年ぶりの祝会ではおいしい食事を分かち合うことができました。バイオリン演奏、ギター演奏と皆で賛美をし、恵みでお腹がいっぱいになりました。祝会が終わってから「恵みをたくさんいただきました」と言って下さる方がおられました。私は諏訪教会に遣わされて初めてのクリスマスを迎えたわけですが、改めて「教会のクリスマスってやっぱりいいな」と思いました。**

**今日は12月31日でいわゆる大晦日です。世間ではすっかり年の瀬お正月モードですが、教会のクリスマスというか本当のクリスマスはまだ終わりません。1月6日の公現日までがクリスマスですから、改めてクリスマスの聖書箇所から共に聴いて、2023年最後の日に神様を礼拝したいと思います。**

**ベツレヘムの家畜小屋でひっそりと生まれ飼い葉桶に寝かされている赤ちゃん、それが人々が長い間待ち望んだ救い主イエス・キリストです。暗く、汚く、寒い場所で小さな弱い赤ちゃんとしてこの世に生まれて下さったイエス様の誕生は、誰にも知られずにひっそりとした出来事でした。**

**イエス様の誕生を最初に知らされたのは夜通し羊の群れの番をして野宿をしていた羊飼いたちです。天使が彼らに近づき主の栄光が周りを照らしました。そして救い主誕生を彼らに知らせたのです。**

**「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。**

 **今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。**

 **あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」（10～12節）。**

**さらにそこに天の大軍が加わり神様を讃美します。**

**「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」**

**天での大合唱です。神様を褒めたたえる讃美の大合唱、救い主誕生の大きな喜びが天上に満ちあふれるのです。**

**羊飼いたちは天使の告げた言葉を信じてベツレヘムに行き、飼い葉桶に寝かされているイエス様を見つけたのです。そして、羊飼いたちは礼拝をするのです。救い主イエス様を礼拝して、その喜びを人々に伝えたのですが、誰も信じてはくれませんでした。**

**そして20節にはこのように記されています。**

**「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」**

**羊飼いたちは自分たちに天使が告げてくれたことがすべて本当の事であったので、イエス様を礼拝し、神様を褒めたたえて讃美をしながら羊たちの待つ野原に帰ったのです。そのような羊飼いたちの様子を見聞きした人たちや羊飼いたちから救い主誕生のことを告げられた人たちは不思議に思ったり不審に思ったりしたでしょう。にわかには信じられないことでした。しかし、羊飼いたちは人々に宣べ伝え、神様を讃美をし褒めたたえたのです。この羊飼いたちの行ったこと、それは伝道です。救い主誕生をその喜びを宣べ伝えたのです。たとえそれが信じてもらえなくても彼らは精一杯喜びを持って、また感謝を持って宣べ伝えたのです。**

**このように羊飼いたちはイエス様の最初の礼拝者であり最初の伝道者と言えるでしょう。天使のお告げを受け、誰よりも先に幼子イエス様を礼拝し、神様を褒めたたえて讃美をし、その喜びを人々に宣べ伝えた最初の伝道者です。たとえ信じてもらえなくても彼らは語り続けたのです。恐らく羊飼いという仕事に戻ってからも、会う人会う人にイエス様誕生のできごとを語り伝えたのではないかと思います。**

**天使が羊飼いたちに救い主イエス様の誕生を、またその喜びを告げる、クリスマスで有名な私たちがよく知る場面ですが、改めて考えてみるとなぜ天使は羊飼いたちにイエス様の誕生を告げたのでしょうか。長い間待ち望まれていた救い主です。その誕生を王様や政治家や宗教的指導者といった当時の支配階級の人たちではなくて、なぜ夜通し羊の群れの番をして野宿をしている羊飼いたちにイエス様の誕生を知らせたのでしょうか。**

**「主は羊飼い」と詩編23編で歌ったダビデ王はかつて羊飼いでした。もっとさかのぼれば、創世記に出てくるカインとアベルの兄弟の弟アベルは羊を飼う者、つまり羊飼いでした。アブラハムもイサクもヤコブも羊を飼う者でした。そういうふうに聖書には羊飼いがたくさん出てきますし、羊が身近な生き物でしたから羊飼いもイスラエルの人々には身近な職業でした。ただ、羊飼いは夜通し羊の群れの番をしなければならないなどかなりきつい仕事であることは確かです。羊という生き物相手の仕事ですから休みなく働かなければなりませんので、安息日に仕事を休んで神様を礼拝しに行くということはできませんでした。安息日を守れないことから罪人として蔑まれていたという考え方もされています。**

**いずれにせよ、その暮らしは決して裕福なものではなく、貧しい階層の人たちであったようです。知識や優れた技術があり人々を支配するとか、今で言うとパーティーをして簡単に裏金が手に入るような職業の人たちというのでは決してない、人々からもてはやされる職業というよりは、貧しくて人が休んでいる間も働かなければならない、人の何倍も働いても生活が決して楽ではない人々、それが羊飼いです。そして、イエス様の父親のヨセフは大工でしたがその暮らしぶりは貧しかったと言われているように、多くの人たちが貧しい暮らしをしていたようです。そう考えると、羊飼いというのは何か特別にこうという職業ではなくて、当時の貧しい普通の人たちの代表ということができるでしょう。いわばごく普通の人たちです。そのごく普通の人たちに神様は天使を用いて救い主誕生を、知らせを伝えさせたのです。ヨセフもマリアもどこにでもいるような貧しいごく普通の人たちであり、神様はその二人を用いてイエス様を私たちの住むこの世界に生まれさせて下さったのと同じで、ごく普通の貧しい人たちである羊飼いたちを神様は愛して下さり、喜びの知らを告げ知らせてくださったと言えるのです。**

**その羊飼いというのは私たちと同じです。この世の中でごく普通の貧しくつつましく日々の歩みをなしている私たちです。華やかな世界にいるのではなく、地味な世界に身を置き、精一杯働いて、精一杯生きて、日々なすべきことをなしているそんな私たちです。それでも色んな辛く苦しい目に遇わなければならない、どうしていいのかわからずに右往左往してしまう、そんな貧しく小さな欠けだらけの羊飼いである私たちに神様は救い主誕生の知らせを告げて下さり、いえ、救い主イエス様を私たちに与えて下さり、私たちを愛して下さったのです。**

**「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。**

**あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」（11～12節）**

**あなたがたのために、つまり私たちのためなのです。私たち一人一人が「この私のためにイエス様は生まれて下さった」そのように神様の愛を心の中に受け止めることができるようになのです。イエス様誕生が決して他人ごとではなくて自分事として受け止めることができるように神様は私たちに語りかけて下さっているのです。そして神様はイエス様を見つけるように私たちを教会へと招いて下さっているのです。教会において飼い葉桶に寝かされている幼子として生まれて下さったイエス様に出会うために。その十字架と復活で私たちを罪から救って下さったイエス様に出会うために私たちを教会へと招いて下さっているのです。**

**羊飼いたちが喜びの中で最初の礼拝者になり伝道者になったように私たちもまた教会で神様、イエス様を礼拝し、伝道をする者に用いられるのです。私たちも喜びの知らせを、十字架と復活によって罪赦されて救われた、その喜びの福音を宣べ伝えるのです。**

**「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」（20節）**

**これって私たちが教会で神様を礼拝し、多くの恵みをいただいて、賛美をしながら帰っていく、そんな私たちの姿と同じです。最初に先週のクリスマス礼拝と祝会で「恵みをたくさんいただきました」と言われた方がいると言いました。そのたくさんいただいた恵みを賛美しながら家に帰り、その多くの恵みを周りの人たちに伝えるのです。「私は教会のクリスマスでこんなにたくさん恵みをいただいたんだよ」「教会のクリスマスはこんなにすばらしいんだよ」「神様はね」「イエス様はね」と私たちが自然に話す時、それは大きな伝道の業になっているのです。**

**こんな話を聞いたことがあります。ある牧師が信徒から「私は伝道が苦手なのですがどうしたら伝道できますか」と聞かれたそうです。するとその牧師は「あなたが教会に行って神様を礼拝して、元気で明るい顔で家に帰ってみなさい。教会に行くときは暗い顔をしていても、教会から帰ってきたら明るい顔になっている。そのあなたの顔を家族や近所の方が見るだけで、教会って素晴らしいんだな、何か違うんだなと思ってもらえて伝道になりますよ」と答えたそうです。**

**私はその話を聞いた時全くその通りだなと思いました。神様から招かれて教会に行って神様を讃美しながら礼拝から帰っていく、多くの恵みをいただいて笑顔で教会から家に帰る、それはたとえ言葉では上手く伝えられなくても私たちの自然な態度で私たちは伝道の働きを行っているのです。良い証しを行っているのです。**

**この1年を振り返ると、私たちは神様から数えきれないほど多くの恵みを頂きました。何か当たり前のように通う日曜日の教会での礼拝で、御言葉の恵みや聖餐の恵みや交わりの恵みをたくさんいただきました。そして、新しい年2024年も多くの恵みを神様は下さるでしょう。その恵みを私たちが教会から賛美をしながら帰っていくことで、また笑顔で感謝に満ちて帰っていくことで、神様イエス様からいただいた愛と恵みを宣べ伝え、証しをしていきたいと思います。**